

# 第19回病診連携委員会要録

日 時 平成23年2月28日（月） 午後7時30分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 8名  
愛染橋病院 : 1名  
大野記念病院 : 2名  
多根総合病院 : 2名  
富永病院 : 1名  
浪速生野病院 : 2名  
山本第三病院 : 2名  
西成区医師会 : 2名  
株式会社フィードテイラー : 1名  
住友セメントシステム開発(株) : 1名  
ソフトバンクテレコム(株) : 3名

## 議 題

### 1. 西成区医師会の紹介について

浪速区近隣医師会である西成区医師会より、会長の馬場谷勝廣先生と理事の赤木利彰先生を当委員会に招待して活動状況をみてもらった。西成区は、医師会運営にiPadを利用することをおかねてより検討しており、次期予算への組み込みを考えているほど積極的である。iPadという共通のツールを使用することから、ブルーカードシステムを理解していただければ賛同、協力が得やすいのではないかと考えられた。

### 2. 第18回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

### 3. 病診連携委員会のアンケート結果について

#### (1) 病院主導で登録医申請用紙とブルーカード登録申し込み用紙を管理することについて

エリア拡大が始まったばかりの現時点では、浪速区医師会がこれまで通り管理する方がよいのではないかと意見と各病院主導で積極的に行ってもよいのではないかと意見があった。ただし、各病院主導で登録を進める場合は、それを統括する組織が必要であることは全員の認識が一致していた。

どちらの方向で行くかは、今後どれくらい積極的にエリア拡大を行っていくかで決まると考えられる。しかし、各病院によってどのくらい登録数を増やそうと考えているかは違っており、急増することは考えにくいので、統括組織やブルーカードのデータアップの方法（病院が行うのか統括組織が行うのか）についても並行して検討していくこととなった。

#### (2) iPad使用時はsoftbankが提供するデータボックスにデータを転送することについて

ほぼすべての施設が、FAX登録の場合は医師会へ、iPad使用時はsoftbankが提供するデータボックスへデータを転送することを了解した。しかし、各

病院に紙データと電子データが存在して混乱するのではないかとの不安材料も問題提起された。FAX登録の場合は、当面は医師会がデータボックスへの転送を行い、病院は電子データとして閲覧、管理できるようにすることとなった。

(3) ブルーカードに医療情報提供書を添付した場合は保険請求すべきか

診療前の行為なので保険請求は無理ではないかという意見と、情報提供書としての機能をもたせるためにブルーカードに情報を付加すれば保険請求が可能ではないかという意見があった。また、宛先が不明確なので請求が困難という意見と不確定の宛先でも情報提供がなされていれば請求は可能ではないかという意見があった。現時点では保険請求をしていないと思われるが、iPadの運用に費用を伴うことと、保険解釈や倫理上のデリケートな問題なので、もう少しブルーカードの成熟を待って検討することとなった。

4. 病院登録医制について

1 次連携病院間で、病院登録制に対する積極性に違いがある。

大野記念病院は、自院の登録診療所であれば西区に限定せずに登録医申請を受け付ける方向であるが、愛染橋病院や山本第三病院は自院の区に限定して登録医申請を受け付ける方向である。それらのことを意識した内容の「ブルーカード登録医制度の案内」と「登録医申請書」を作成してあらためて提示することとなった。

5. iPad&シンクボードについて

(1) ㈱フィードテイラーより

ブルーカードにおけるシンクボードの役割についてのプレゼンテーションがあった。

(2) 住友セメントシステム開発(株)より

シンクボード利用料について説明があった。

(3) ソフトバンクより

問診ソフトの提案とiPadの購入費用について説明があった。

6. その他

(1) 愛染橋病院より、実際の運用例で再確認してほしい事案があるとの発言があったが、予定時間が延長していたため、次回以降に改めて個別の問題例として協議することとなった。

現在までの登録症例は244件、稼働件数は34件、死亡などによる中止は13件である。

次回会議予定 平成23年3月28日(月) 午後7時30分～